

脊椎内視鏡下手術 [Web 動画付]

吉田宗人 ● 編
中川幸洋 ● 編集協力

〔評者〕 中村博亮 (大阪市立大学大学院教授・整形外科科学)

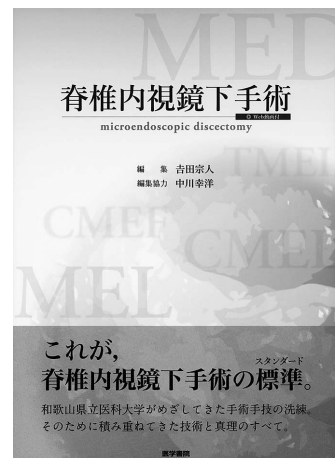
このたび、和歌山県立医大整形外科教室吉田宗人名誉教授の編集によって『脊椎内視鏡下手術 [Web 動画付]』が医学書院から発行された。表紙の帯に記載されているように、和歌山県立医大がめざしてきた洗練された手術手技、そのために積み重ねてきた技術と真理のすべてが本書に集約されている。内視鏡下脊椎手術は1991年にObenchainが腹腔鏡視下手術を施行したのに始まり、その後、1997年にはSmithとFoleyによって後方からの内視鏡による椎間板切除術が施行された。

この方法をいち早く本邦に導入されたのが吉田名誉教授で、1998年のことであった。われわれも1999年からこの方法を導入し、種々のご教示をいただいた。2004年には日本整形外科学会が脊椎内視鏡下手術の技術認定医制度を発足させ、2006年には本法が正式に保険収載された。この間、吉田名誉教授は周辺光学機器およびインストゥルメントの開発に勤しみ、本法をスタンダード手術手技になるまでに尽力された。日本整形外科学会の脊椎脊髄病委員会の

アンケートにおいて、2015年には1万5千件の内視鏡下手術がなされており、80%以上が後方からの手技となっていることがこれを物語っている。

本書の特徴は基本的な解剖や手術器具のセットアップの方法から、手術の各段階における器械の操作方法、各疾患に対する実際の手術手技が解説されていることである。特に実際に行ってみないとわからない細かいポイント、例えばレンズを曇りにくくする方法などについても懇切丁寧に解説されている。さらには万一起こった際の合併症への対応の仕方まで解説が及んでいるが、これらすべてが和歌山県立医大の教室員によって執筆されているということが特筆すべき点であろう。

手術手技の解説に当たっては多くの術中写真が使用され、またそれに対比するように解説図が多く併記されており、理解しやすい構成になっている。さらにありがたいのはweb上で該当する部分の動画が参照できることである。手術を既に相当数施行している者に



とつても、再確認するのに大変有意義である。

これから本法を始める予定である若手医師にとつても、あるいは既に手術を行っている医師たちにとつても、常に傍らに置いて参照したい一冊であることは間違いない。

A4・頁 248

2017年6月

定価：本体 18,000 円＋税

[ISBN978-4-260-03053-3]

医学書院 刊